神の武器でたたかう―イエス・キリストの十字架と復活の記憶　みこころ―

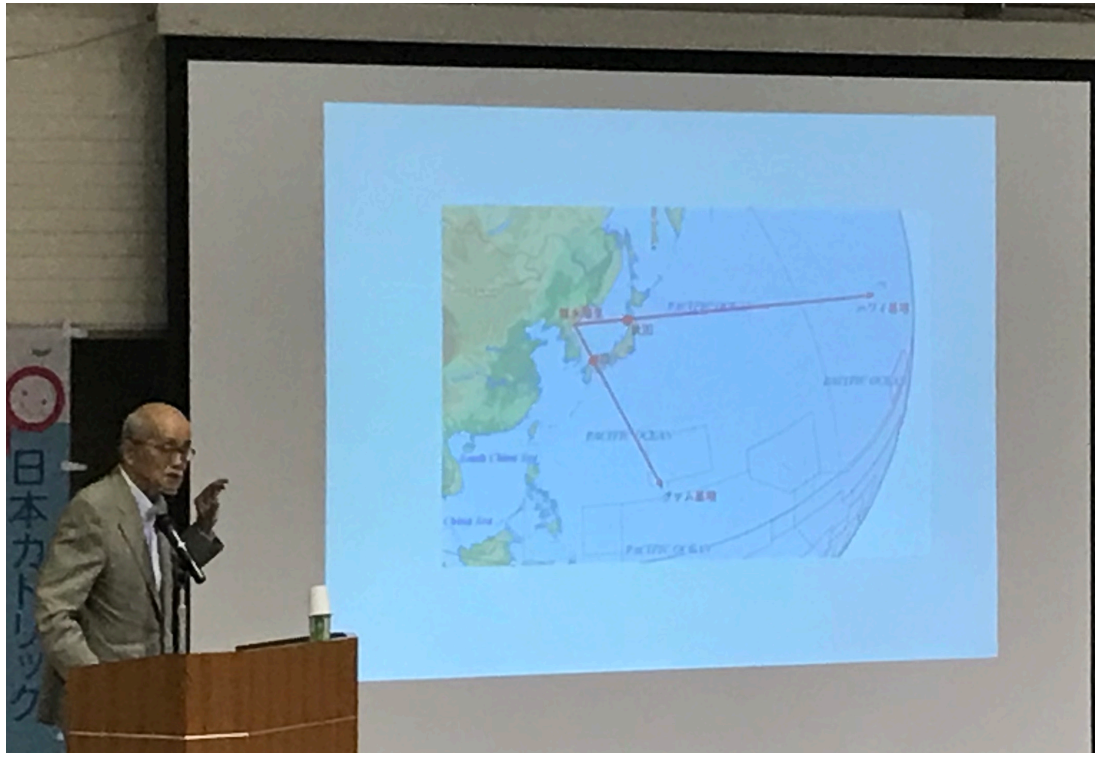
沖縄　ガマでの体験

「どうかここで亡くなられた人々の平和への思いを実現していく道具としてください。」

ヒロシマ　ナガサキの抑止力

- 「ヒロシマ　ナガサキの抑止力、彼らと連帯する民衆の抑止力が核の使用をゆるしてこなかったのだと思います。」

前田徹郎



教皇の広島におけるメッセージ

わたしたちは歴史から学ばなければなりません。

思い出し、ともに歩み、守る。この三つは倫理的命令です。これらは、まさにここ広島において、よりいっそう強く、より普遍的な意味をもちます。この三つには、平和となる道を切り開く力があります。ですから、現代と将来の世代に、ここで起きた出来事の記憶を失わせてはなりません。より正義にかない、いっそう兄弟愛にあふれる将来を築くための保証であり起爆剤である記憶、すべての人、わけても国々の運命に対し、今日、特別な役割をおう人たちの良心を目覚めさせられる、広がる力のある記憶、これからの世代に向かって言い続ける助けとなる生きた記憶をです。二度と繰り返しません、と。

罪の記憶 不都合な記憶 (Dangerous Memory)

ヨハネ・パウロ二世の
　教会の歴史についての謝罪
アルゼンチンの司教会議や
　日本の司教団のメッセージ

- 社会の罪の構造

ルクレティア先生の
　I’m so sorry.

歴史の問い直し

十字架の記憶　「その木の中に入りなさい」

傷ついても決して破れることのない網。

「傷つくことを怖れないでください」

黙想：イエスのみ心

- 疲れた者、重荷を負う者はわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。わたしは柔和で謙遜な者だから、わたしの軛を負い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる。わたしの軛は負いやすく、わたしの荷は軽いからである。
- （マタイ11：28–30）